25

戰史資料

（沖縄縣宮古島）

歩兵第三聯隊第二大隊長

陸軍少佐　中島周治郎

一、編成裝備関係

ノ、自己部隊及関係部隊ノ編成人員兵器彈藥

(1) 自己部隊ノ編成人員

第二大隊本部	六十三名
第五中隊	一八六名
第六中隊	一七五名
第七中隊	一八〇名
第八中隊	一八三名
第二機関銃中隊	一六〇名
第二歩兵砲小隊	五〇名
計	五九七名

配屬部隊（二〇・二―終戰迄）

RiA　一小隊　三〇名（二門）

協力部隊（二〇・二―終戰迄）

TA　一小隊　二〇名（二門）

2. 職員表

別紙ノ如シ

3. 人員兵器等ノ增減關係（主ナル時期ヲ畫シ概略數字）

(1) 人員

直接戰斗ニ於テ死亡セルモノ僅少ニシテ主トシテ對空射擊部隊及飛行場補修作業部隊ニ於テ戰死者ヲ出ダセルノミ他ハ凡ベテ「マラリア」ヲ主体トセル戰病死ナリ

其ノ時期別ニ就テハ各月大差ヲ認メズ

戰死　一〇名
戰病死　一一〇名

(2) 兵器

増減ナシ

4 台灣人鮮人現地住民使役ノ関係

現地住民約百五十名及築城作業又防衛隊員トシテ現地住民ヲ教育訓練並ニ土工作業ニ使用ス其ノ作業能力ハ兵員ノ3程度ナリ

二、部隊履歴ノ概要

昭和十九年六月三日原隊復歸後汐州国東安省鏡河縣大代河ヲ出発国境警備ノ任務ヲ解除サル

昭和十九年七月十日滿洲國哈爾奚ニ於テ編成完結出発

昭和十九年七月三日一部編成改変金山出発

昭和十九年八月三日宮古島上陸爾後飛行場構築陣地構築作業ニ従事ス

昭和二年三月三十日
昭和二年七月三十日　天號作戰ニ参加主トシテ飛行場復旧作業ニ従事ス

宮古島守備ノ間増原陣地大野山林四七高地添道方面ノ守備ニ任ゼリ

結　専ラ現地自活体力ノ回復増強ニ勉メ其ノ間兵器奉還並ニ埠頭作業道路工事等ニ従事シツヽ復員ヲ待期シアリシガ一月二十五日米船「ジャクソン」号ニ乗船一月三十日浦賀ニ上陸ス

三、指揮隷属関係其ノ変遷ノ概要

大隊ハ常ニ聯隊長ノ直轄トナリ第一線ニ従事ス

四、作戰準備関係

防禦方針

作戰全期ヲ通ジ水際撃滅ヲ方針トセリ

防禦配備

佐川根正面　七八中隊第一線

下崎正面　五、七、八中隊第一線トシ主抵抗拠点ヲ形成シ尚水際部隊トシテ兩正面ニ各二小隊ヲ配置セリ

陣地ノ状況

	起工時期	所要人員	使用資材	完成時期及強度
(イ) 壕景陣地	昭一九、八、二五	三〇〇	松材	約一ヶ月ノ作業ニテ変換又
佐根陣地	昭一九、一〇、八	三〇〇	松材	昭二〇、三、一概成 90%
添道陣地	昭二〇、二、二五	三〇〇	松材	昭二〇、八、二五概成 85%

(四七高地)

(ロ) 敵攻撃破壊補修状況

敵ノ四次中攻撃ニ依リ若干被害ヲ蒙リタルモ地上攻撃ヲ受ケタルコトナシ

(ハ) 港湾施設飛行場施設

ナシ

3. 作戦準備ニ関スル主要ナル命令ノ内容(概要)

主トシテ陣地構築ニ関スル命令演習配備ニ関スル若干ノ命令ヲ下達シタルニ過ギズ

4. 軍需品集積状況

集積輸送　十二月分ヲ分散洞屋内ニ集積スベガ埠頭ヨリノ輸送ニ当リテハ師団輜重隊ノ擔任セルモノナリ

現地自活ノ概要

昭和二十年三月以降宮古島健在ノ為及補給困難ナル実情ニ鑑ミ陣地構築作業ト平行シ現地自活即作戦任務ノ遂行ニ針ノ下ニ実施

結果復員時迄給養ニ大ナル支障ヲ来サザリキ

補給輸送ニ於ケル船ノ損耗状況

当部隊乗船ノ船ニ対シテハ損耗ナシ

五、訓練ノ状況

(戦斗準備)

ノ、参加セル主要ナル作戦(戦斗ノ概況

自昭二〇年三月三日　天号作戦ニ参加主トシテ宮古島飛行場ノ爆撃復旧

至ノ　七月二十日

作業ニ従事ス

2. 敵機動部隊来襲状況

昭和二十年五月四日戰艦巡洋艦ヨリナル十数隻ノ機動部隊ノ艦砲射撃ヲ受ク其ノ他敵機動部隊附近航行中ノ情報数度アリタリ

3. 敵機来襲状況

昭和十九年十月十日以降毎連日数偏隊ニヨル来襲アリタリ特ニ三月下旬ヨリ沖縄作戰終了ニ到ル間熾烈ヲ極メタリ

4. 敵機ノ損害不明

5. 落下不時着降下者ニ對スル處置

處置セシコトナシ

6. 敵ノ俘虜数

敵ノ俘虜数ナシ

六 給養 衛生

給養

昭和十九年八月宮古島上陸以降翌二十年二月迄ハ概ネ順調ニ給養ヲ実施シ得タルモ三月以降空爆ノ愈々猛烈ヲ極ワムルト共ニ補給全ク杜絶ノ状況ニ入リ加ヘテ宮古島健在ノ目的ヲ達成センガ為メニハ貧弱ナル糧食ヨリ「喰延バシ」ハ必然的ニ実施セラレ五月以降ハ凡有ノ所在物量ヲ活用スルモ尚糊口ヲ僅カニ潤ホスノ状況ニ至レリ

之レガ為三月以降ハ現地自活即作戰任務遂行ノ方針ノ基鋭意努力セルモ三月成果ハ十月以降ニ於テ始メテ得ラルルノ状況ニシテコノ間ハ全リノ苦況ノ下ニ活動セリ

十月以降ハ漸次現地自活ノ実ヲ結ビ給養ハ概ネ漸次旧ニ復シ兵員ノ健康状況モ遂次旧ニ復セリ

衛生

本島ハ「マラリア」地帯ニテ特ニ大隊ハ駐屯全期ヲ通シ「マラリア」ノ最汚染地ニ在リ

加之給養ノ劣悪ノタメ「マラリア」性營養失調症ニ依ルノ犠
牲者逐次増加ヲ来シ遂ニハ全兵員ノ九〇%ハ「マラリア」ニ罹
患スルノ止ムナキニ至レリ
然レドモ作戰任務ハ瞬時タリトモ遲延ヲ許サズシテ兵員
ノ体力消耗ハ極度ニ達セリ
二十年十月以降ハ現地自活成果ノ漸進的向上ト時間ノ餘裕
トニ依リ保育衛生ニ全力ヲ傾注シ体力ノ恢復ニ努力セシ結
果復員時ニ當リテハ全員元氣旺盛和氣アリ〳〵タル中ニ
其引揚完結ヲ見ルニ至レリ

七 終戰ヨリ帰還迄ノ行動ノ概要

終戰ヨリ概ネ十月迄ハ兵器奉還埠頭作業、築城復旧作
業ニ終始ス
此ノ間現地自活保育衛生ニ重点ヲ指向徹底ス
十月以降ハ現地自活保育衛生ニ重点ヲ依然指向スルト共ニ
此ノ間復員準備ノ完璧ヲ期セリ
二十年一月三十五日米船「ジャクソン」号ニ乗船宮古島ヲ出発
同月三十日全員無事浦賀ニ上陸セリ

別紙

第二大隊長陸軍少佐中島周治郎

副官　中尉　滝沢春雄
附　中尉　伊藤公威
〃　〃　井上幸男
〃　〃　主計中尉　板東木二彦
〃　〃　〃　軍医大尉　佐藤弘隆
〃　〃　〃　馬場俊夫
〃　獣医中尉　原公善

第五中隊
中隊長　大尉　横田善龍
第一小隊長　中尉　松上久夫
第二小隊長　中尉　中川忠季
第三小隊長　准尉　小山伊助

第六中隊
中隊長　大尉　山谷誠一
第一小隊長　中尉　橋口光己
第二小隊長　小尉　甘利宏
第三小隊長　小尉　飯田健吉

第七中隊
中隊長　大尉　横井長太郎
第一小隊長　中尉　直喜久
第二小隊長　少尉　金松正雄
第三小隊長　少尉　関口子之三

第八中隊
中隊長　大尉　佐藤正己
第一小隊長　中尉　江村博
第二小隊長　中尉　山口勝夫
第三小隊長　少尉　杉田茂

第三機関銃中隊
中隊長　大尉　菅野淳士
第一小隊長　中尉　甘獅恒雄
第二小隊長　少尉　山岡巧
第三小隊長　少尉　座間勝矢

第二工兵施設小隊
小隊長　中尉　大矢壽雄